

# 関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業 ～ 関西・瀬戸内“空の廊下”構築プロジェクト～ 事業成果報告書



申請者：(一社)MASC



協力事業者:

(株)Sanwa Aerospace Industry、(株)パソナグループ、オリックス(株)、(株)建設技術研究所  
エアロファシリティ(株)、(株)トラジェクトリー、(株)AirX、兵機海運株式会社、(株)日本空港コンサルタンツ  
(財)日本気象協会、EHANG、AUTO FLIGHT、EVE

2026/3/12

# 目次

---

1. コンソーシアム構成企業 .....	3
コンソーシアム構成企業 .....	4
2. 事業構想 .....	5
事業構想 .....	6
事業の目的 .....	7
3. 2025年度事業の実績 .....	8
(1)飛行実証等ビジネス化に資する事業 .....	9
(2)ビジネスモデルの検証に資する事業 .....	21

---

# 1. コンソーシアム構成企業

# コンソーシアム構成企業

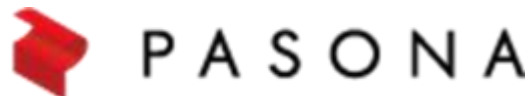
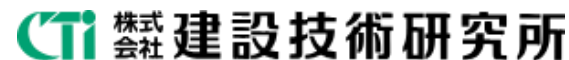
- 本事業は、(一社)MASCが申請者、協力事業者として運航、ポート計画・設計、ポート運営、通信、UATM等、各界の専門事業者から成るコンソーシアムを構成して実施しました。

<申請者>



連携・協力

<協力事業者>



エアロファシリティーズ株式会社



---

## 2. 事業構想

# 事業構想

- 当コンソーシアムでは、今年度の事業をステップとして、**2030年代に関西・瀬戸内エリアが“空のコリドー”で結ばれ、より自由に・より活発に空の移動が実現する社会**の実現を目指しています。

## ■2030年代： 関西・瀬戸内エリアにおける “空のコリドー”の確立。

■2028年度：空飛ぶクルマによる空の移動サービスの**事業開始**。

■2027年度：空飛ぶクルマの訓練・飛行試験受入事業の開始。

■2026年度：事業基地の整備着手・環境アセス等各種許認可の取得。  
実機導入(SKYDRIVE社製SD-05他)及び運航ルートの検証。  
衛星通信によるC2リンクの検証。

(今年度)

■2025年度：事業体制の構築準備、事業場所の具体的選定、基地の建設事前準備、人  
材確保及び訓練の為の準備

★大阪・関西万博★

■2024年度：空飛ぶクルマの国内運航体制の確立に向けた人材育成。飛行可能な実機による飛行体制の確立準備  
(訓練、体制準備等)。**兵庫県補助事業採択** ゼロエミッションフライト**(日本初)**

■2023年度：**兵庫県・神戸市補助事業採択**…空飛ぶクルマ実機にADS-Bを搭載し、機体位置をモニタリング。総務省による無線  
局本試験、Sモードトランスポンダの総合試験を実施。**(日本初)**  
空飛ぶクルマの騒音シミュレーション手法を開発。

■2022年度：空飛ぶクルマ実機による実証飛行(有人飛行)を実施(大分県大分市：**日本初**)

■2021年度：空飛ぶクルマ実機による実証飛行(無人飛行)を実施(岡山県笠岡市：**日本初**)

■2020年度：空飛ぶクルマ実機(EHang216)を導入**(日本初)**

# 事業の目的

---

## ■ プロジェクト名称

### 関西・瀬戸内エリアにおける空飛ぶクルマ社会実装事業 ～ 関西・瀬戸内“空のコリドー”構築プロジェクト ～

## ■ 問題意識・プロジェクトの目的

- 当コンソーシアムでは、一次拠点となる関西国際空港や神戸空港からの関西圏内、更には瀬戸内に至る2次交通を提供する拠点として、利用可能な空港、特に神戸空港の利活用を推進し、兵庫県・大阪府の大阪湾ベイエリア及び淡路島をハブとした遊覧飛行やシャトル輸送サービス等、高付加価値観光、並びに事業の収益を確保し継続的に事業を行う為、遊休時間及び災害等の発生時に基礎自治体が独自の利用を可能とする、官民連携による災害対応等の開拓を目指している。
- 将来事業の初期段階として、将来的な空飛ぶクルマの利用も想定したヘリの離着陸場を兼ねたVPを淡路島(候補地:夢舞台周辺等)に設置する事を目的とし、事業実施に関する環境整備及び事業基盤の整備としての空飛ぶクルマの基地化に資する飛行試験を実施する。
- 尼崎フェニックス暫定Vポートを活用した実証飛行によるパイロットの慣熟訓練や、整備士等の育成を実施すると同時に通信の安全性の向上の状況確認を実施する。
- 将来活用の出来る離着陸場の候補地を選定し、海上Vポートを含む、Vポートの計画素案を作成するとともに、地元等の基礎自治体と必要な調整を行う。
- こうした取り組みを通して、関西エリアの空飛ぶクルマの事業化の取り組みを事業者と共に牽引する事により、そのポテンシャルを活かし、関連する産業の集積が進み、関西圏が国内随一のエアモビリティに関する一大集積地として発展を遂げていくことに寄与することを目指す。

---

## 3. 2025年度事業の実績

---

# (1) 飛行実証等ビジネス化に資する事業

# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## ① A、 運航安全性の向上に資する実証飛行<LTE、ADS-B通信の確認>

### <LTE通信の改善状況の確認>

- 尼崎フェニックス事業用地におけるLTEの改善が行われたが、駐車場利用者の増加や楽市楽座の催しが行われるため、電波利用も増加しており、その環境下においても、十分に安全運航が出来るか楽市楽座等、フェニックスでの催しに併せて、実証飛行を行う。

目標： 尼崎フェニックス事業用地にてLTE通信が十分に確保できることを確認する。

成果⇒ LTE通信が十分に確保でき、十分に飛行することが出来ることを確認した。

#### 【実施内容】

- ・右の写真の高度30m/50m/70m 人流量の変化による測定

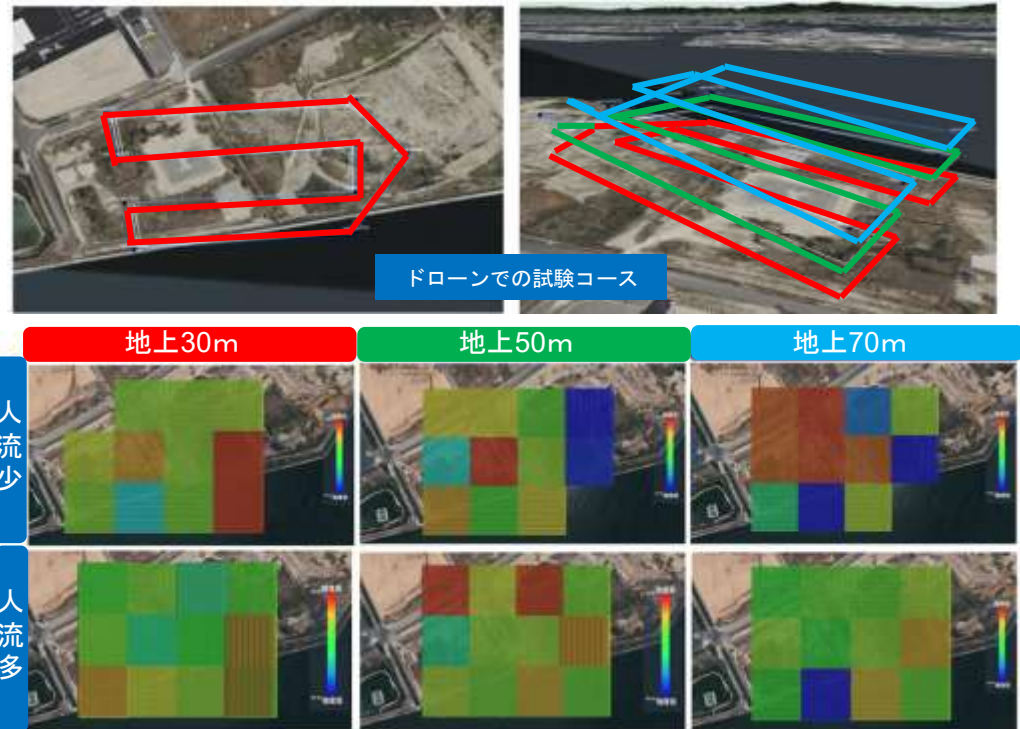
楽市楽座イベントの準備日(人流少)(2025年8月1日)  
楽市楽座イベントの開催日(人流多)(2025年8月2日)

- ・人流変化によるLTE通信品質の変化  
高度30m:人流増 → 品質低下  
高度50m:大きな差なし(やや改善)  
高度70m:人流増 → 品質低下

- ・レイテンシー・スループットを分析した。

#### 【実施結果】

- ・人流の増加により多少通信品質の低下が見られたが、  
飛行に問題ない通信を確保出来た。



# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## ① A、 運航安全性の向上に資する実証飛行<LTE、ADS-B通信の確認>

### <ADS-B通信状況の確認>

- 2024年9月12日 大阪ヘリポート⇄尼崎フェニックス間における実証フライトでは、ADS-Bの発信する位置情報にて、UATMシステム内で位置情報を確認出来たものの、受信の安定性など改善の余地があったが、今回の飛行試験にて、その改善により安定した情報が得られた。

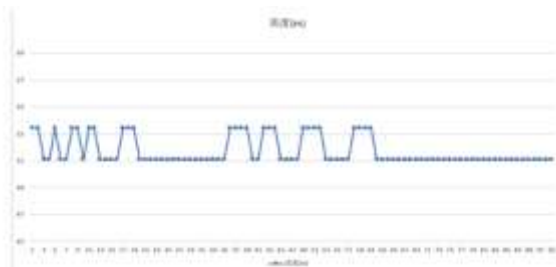
空飛ぶクルマにおいて、精度の高い位置情報を得ることが出来たのは**日本初**

### 【ADS-B受信結果】

- ・識別情報・位置情報ともに安定
- ・昨年度より位置精度が改善
- ・関空・淡路島でも飛行経路を鮮明に確認

### 【ADS-B受信での高度情報】

- ・高度は51,1m~53,4mとほぼ実機と同等で安定し、精度も高い。



### 【ADS-B受信での飛行経路】

- ・経路も安定しており、ほぼ実際の飛行経路であった。



# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

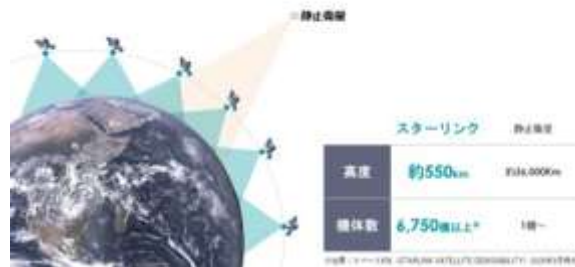
## ① B、 運航安全性の向上に資する実証飛行

### <今年度の実施事項>

- 通信の冗長性を確保するため、LTE以外の周波数の通信に併せて、長距離 通信の可能なStarlink などについて模索し、装着に向けた取り組みを実施した。

目標： 冗長性を確保する為の通信装置装着及び通信方法の基礎調整を実施。

成果⇒Starlink が使用可能である事を確認。将来のC2リンクとして可能性を確認した。



### 【調査結果】

- ・国内では移動体利用の免許が未整備 → 地上通信のみ
- ・Wi-Fi経由でGCUとのデータ送受信を確認
- ・150Mbps以上の速度で安定通信
- ・将来のC2リンク候補として有望



# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## ① C、 運航安全性の向上に資する実証飛行

### <今年度の実施事項>

- 基礎自治体や、関連企業を試験飛行に招待して、実際に空飛ぶクルマが飛行している姿を見て貰い、今後の社会実装に向けた理解と協力を促すとともに、課題や懸念点についても意見交換を行い、空飛ぶクルマの運航安全への理解を深めることができた。

**目標： 関連事業者、基礎自治体などの空飛ぶクルマの運航安全への理解を深める。**

**成果⇒実機飛行含め、パネルディスカッション等により運航安全への理解が深まった。**

### 尼崎フェニックス事業用地にて「座談会」を実施

【8月2日実施】

- ・実際の飛行を見学
- ・空飛ぶクルマの実務者による説明、実例紹介、討論会など
- ・観光、救急、防災等、自治体への期待を中心に説明
- ・楽市楽座会場におけるパネルディスカッションによる座談会の開催など



# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## ① C、 運航安全性の向上に資する実証飛行(ひょうご楽市楽座への協力)

- 平行して開催された楽市楽座において、空飛ぶクルマ説明会、飛行見学会、パネルディスカッション、VR体験、実機展示、写真撮影会など、地域社会への社会受容性の向上に大きく貢献した。

来場者:8/2日 約2,200人、8/3日 約2,700人



# ア. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた実証フライト等実証実験

## ② 水上ポートを活用したコリドーの拡大

### <今年度の実施事項>

- 平台船上での磁気調査に加えて、磁気対策の検討および、水上ポートとして設置可能な方法により、無操縦者航空機においても、離着陸可能な水上ポートでの実証実験を実施の可能性を検証した。



目標： 平台船上からの離着陸を行う。

成果⇒実施の可能性についての詳細調査実施。

### 【調査検討内容】

#### (平台船の磁化状況)

- ・平台船のほとんどに残留磁気が残っている状態であり、姿勢制御に悪影響を及ぼす懸念がある状態であった。

#### (輸送用パレットの活用検討)

- ・輸送用パレットを活用し嵩上げして、磁気影響を減衰させるべく検討したが、パレット1300個程度が必要となり、組み立て工程含め、実施は、非現実的である。

#### (アルミ製VPの活用検討)

- ・アルミ製VPによる嵩上げは有効ではあるが、費用的に過大となる。

#### (大型/小型フロート活用検討)

様々なフロートも検討したが、強度不足が懸念され、組み立て工期が過大であり非現実的である。

#### (まとめ)

- ・多大な工期や、費用対効果に再考の余地がある。



# イ. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた人材育成

## ③ A、事業化に向けたオペレーション人材の育成

**日本初**  
空飛ぶクルマ、パイロットインストラクター認定

### <今年度の実施事項>

**A** 尼崎フェニックス事業用地における実証飛行の取り組みに併せて、日本人パイロットの慣熟訓練を実施。

**目標: A、パイロット技能の維持のための慣熟飛行の実施(2名以上)**

**成果⇒ A、パイロット技能の維持のための慣熟飛行の実施(4名実施)**

#### (パイロット慣熟訓練状況)

- ・既訓練受講者4名に対し慣熟飛行訓練を実施。
- ・尼崎でのフライトで、合計1時間を超えるフライト時間になった。
- ・全てのフライトが良好であり、不具合もなく終了出来た。
- ・メーカーからも今回の慣熟訓練フライトにより、A氏、B氏においては、インストラクターの認定を受けた。



飛行した年月日	離陸時刻	飛行時間	機長	副機長	飛行に対する操縦者の評価
2025/7/31	10:39	05:04	A	B	良好
2025/7/31	14:21	05:04	A	B	良好
2025/7/31	16:45	05:08	A	B	良好
2025/8/1	10:32	11:25	A	B	良好
2025/8/1	14:15	05:04	A	B	良好
2025/8/1	16:43	04:56	A	B	良好
2025/8/2	11:01	15:57	A	C,D	良好
2025/8/2	16:32	05:14	A	C,D	良好
2025/8/3	16:38	07:03	A	C,D	良好
2025/8/3	17:14	03:56	A	C,D	良好
尼崎での総飛行時間		1:08:51			



# イ. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた人材育成

## ③ B、 事業化に向けたオペレーション人材の育成

### <今年度の実施事項>

**B** 整備士の養成のため、メーカーへの派遣を行い整備体制の強化。

目標: B、 メーカーへの整備士訓練派遣(2名以上)

成果⇒国内での整備士訓練は実施出来た(2名実施)

### (整備士訓練状況)

- ・尼崎でのフライト前整備において、メーカー技術者によるトラブルシューティング方法含めた整備訓練を実施。
- ・尼崎到着後の、組み立て、飛行前点検、飛行後点検、機体地上ハンドリングなどの訓練を実施。
- ・メーカー技術者は、ほぼ手を出すことなく、飛行の準備から分解、撤収作業まで実施出来た。
- ・対象者2名については、航空機の有資格整備士であるため、基礎能力は保有しているため、特有事項のみの訓練で充分であった。
- ・訓練終了証については、本国での訓練終了者にのみしか発行できないとのことで、修了証の発行はない。
- ・本国に派遣し、訓練の受講を調整していたものの、政府間の問題により、派遣できない状況となった。



# イ. 空飛ぶクルマのビジネス化に向けた人材育成

## ③ C、 事業化に向けたオペレーション人材の育成

### <今年度の実施事項>

**C** 事業化に向けて必要な人材が確保できるようマーケティングを行い人材確保、人材育成の計画を策定。

**目標:** 人材確保のためのマーケティングの実施、人材確保計画の策定。

**成果⇒** 人材確保のための、教育機関との覚書を締結。

#### (マーケティングの状況)

・コンソチーム内の人材派遣を得意とする協力事業者と度重なる協議を実施したものの、航空事業やドローン事業に対して、現在の協力事業者に求めるのは難しいとの方向であり、特殊技能・航空関連会社等との窓口づくりを模索することとした。

#### (航空機運航業者との調整)

・航空運送事業者へ訪問し空飛ぶクルマの運航への協力を要請し、航空運送事業者としても将来空飛ぶクルマ事業への展開を検討せざるを得ないとの認識により、将来体制構築のため、協力していくことを模索していくことに前向きな回答を得た。

#### (航空教育学校との調整)

・航空教育学校と協議し、空飛ぶクルマに対する新しい学科を検討していくことに合意し、その条件および気運醸成のため、航空祭への空飛ぶクルマの地上展示を行い、前向きに検討されることとなり、併せて、大学研究機関とも協力体制を含めた、航空教育学校と大学研究機関と3社の合意に基づく覚書の締結が出来た。



# ウ. 空飛ぶクルマのビジネス化に資するその他の取り組み I

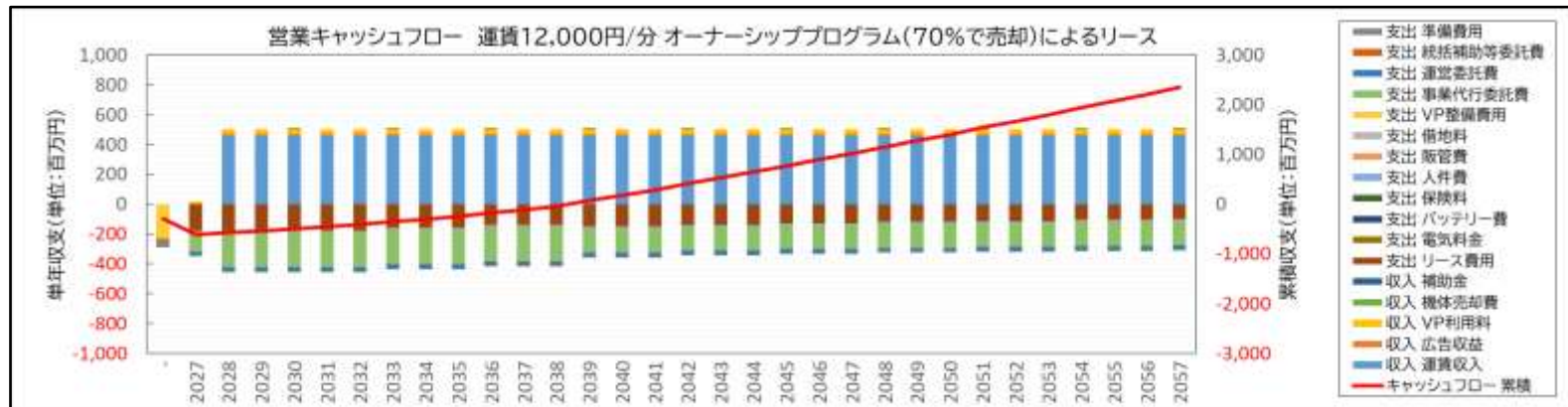
## ④ 事業実現性に関する検討

- 事業化に向けて更に緻密な検証が必要であり、機体特性や、事業場所、業種などを考慮し、実状に合わせた詳細な採算性を検証し、**複数事業や地場産業などとの連携、基礎自治体との連携**など、あらゆる事業性を模索を検証した。

目標: 具体的な事業採算性資料の作成。

成果⇒事業採算性を判断出来る資料の作成を実施。

機体調達方法	売値 購入価格比率	乗車料金	PIRR 20年	回収時期	最大マイナス 収支
オーナーシッププログラム リース  (オーナーは3年毎に買替)	60%	10,000円/分	-10.8%	30年以上	12.8億円
	60%	12,000円/分	1.9%	18年目	6.7億円
	70%	10,000円/分	-1.9%	21年目	7.4億円
	70%	12,000円/分	8.0%	11年目	6.1億円
	80%	10,000円/分	5.5%	15年目	5.6億円
	80%	12,000円/分	14.3%	8年目	5.6億円



淡路島における空飛ぶクルマ事業主体の事業採算性の試算結果



---

## (2) ビジネスモデルの検証に資する事業

# ウ 空飛ぶクルマの実現に向けた社会受容性向上の取組- I

## ⑥ 基礎自治体、運航会社等を対象としたセミナーの実施

### <今年度の実施事項>

基礎自治体、地域団体などに対して、救急、防災、災害対策面などをPRやセミナーを実施し、併せて、関西万博EXPO Vertiport(万博ポート)に招待し、実際のVertiportの説明等を行い有用性の理解を深めることが出来た。  
尼崎フェニックス暫定VPでの楽市楽座などの催しに合わせて、地上展示、飛行見学を実施し、社会受容性の向上に取り組む。

目標: 基礎自治体、地域企業・団体等との協定・覚書等の締結  
成果⇒基礎自治体、地域企業・団体等への説明会・セミナー等を開催  
特に淡路3市に対して、大きく理解を深めた。

### ① 尼崎フェニックス事業用地にて説明会を開催

【7月31日～8月3日 4回 現地にて開催】

自治体を対象とする観光・救急・防災等への活用セミナーによる社会受容性向上の取り組み

- ・自治体参加数、10自治体、29名(県内6自治体、県含む)
- ・参加企業数、15社、25名
- ・兵庫県知事、県議にも参加頂き、概要説明を実施
- ・実際の飛行を見学
- ・空飛ぶクルマの概要から情勢、VP、世界情勢、実例紹介等
- ・観光、救急、防災等、自治体への期待を中心に説明

兵庫県 令和7年度空飛ぶクルマ実装促進事業

自治体等を対象とする観光・救急・防災等への活用セミナー  
による社会受容性向上の取り組み  
実証飛行見学会 (集合場所等のご案内/8月2日、3日)



2025/7/31~8/2

一般社団法人MASC 



# ウ 空飛ぶクルマの実現に向けた社会受容性向上の取組

## ⑥ 基礎自治体、運航会社等を対象としたセミナーの実施

### ② 空飛ぶクルマ 淡路3市合同勉強会を実施

【12月8日 洲本商工会議所にて開催】

淡路島を空飛ぶクルマの先進地域に！

- ・自治体参加数、6自治体、15名
- ・淡路(淡路市、洲本市、南あわじ市)3市の担当者の参加
- ・参加民間企業数、9社、17名
- ・空飛ぶクルマの概要から淡路の実装イメージ、など
- ・観光、救急、防災等、自治体への期待を中心に説明
- ・勉強会后、3市から複数のVP候補地の提案を受け個々の検討を実施。調整を開始した。



### ③ 神戸空港でのセミナーの開催

【2月9日 神戸空港団体待合室にて開催】

空飛ぶクルマの社会実装に向けた処方箋

～官民連携で創る“空クル”のある地域の未来～

- ・参加者数45名(会場:22名(登壇者含む)オンライン:23名)
- ・官、自治体関係参加数、15団体、24名(県内5団体、7名)
- ・空飛ぶクルマの情勢、VP、世界情勢、など
- ・観光、救急、防災等、自治体への期待を中心に事例紹介等
- ・官民連携の事例紹介、重要性を強調



### ④ 関西万博EXPO Vertiport(万博ポート)に招待

- ・万博Vertiport会場での見学・説明について、県内複数自治体に対し実施。



---

# Appendix

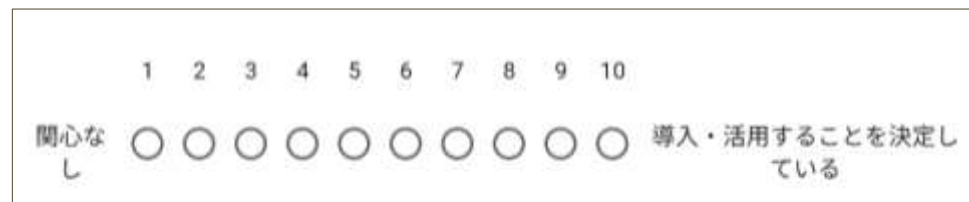
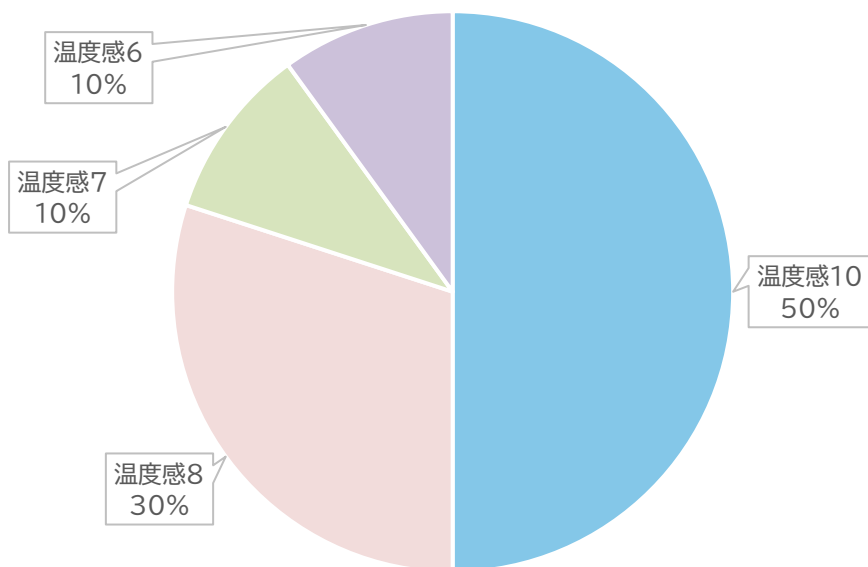
2/9 神戸セミナー 終了後アンケート結果 抜粋

## <アンケート集計結果 抜粋>

2026年2月9日開催「空飛ぶクルマの社会実装に向けた処方箋」のご参加後、アンケートを実施し、12名の回答を得た中で、特徴的なところを抜粋した。

特にグラフに関しては、**官公庁、自治体** 参加者10名のアンケート結果を集計した。

問4. 空飛ぶクルマ(eVTOL)の導入・活用に、どの程度関心がありますか(自組織として参画・関与することへの**温度感**)？



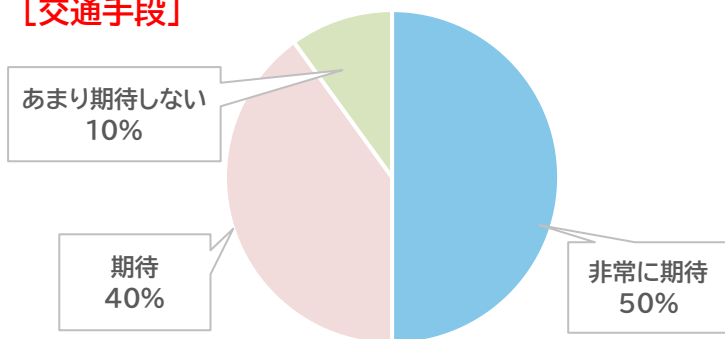
### 【コメント】

空飛ぶクルマへの関心度は、6以下の評価は0件で、全体的に非常に高く、**50%が温度感を10**と評価されており、関心度が高まっていると評価できる。

問5. 空飛ぶクルマ事業に、どの分野・ユースケースでの活用を期待しますか？

	非常に期待	期待	あまり期待しない	想定していない
防災・減災	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
観光・遊覧・体験	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
交通手段	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
物資輸送	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
医療	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

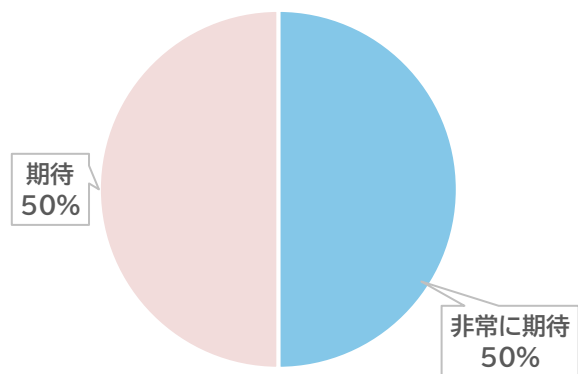
**[交通手段]**



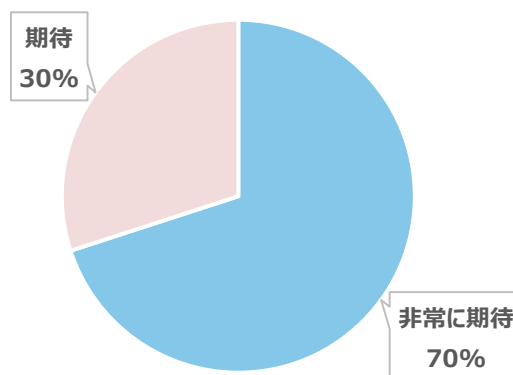
**【コメント】**

活用への期待は、**各分野共に50%以上が非常に期待している**との結果になっており空飛ぶクルマへの期待度が非常に高いものとなっている。特に、現状では、活用方法がに明確でない部分も多く、観光・遊覧・体験の非常に期待が70%と高くなっており、また、防災・医療についても非常に期待されている。

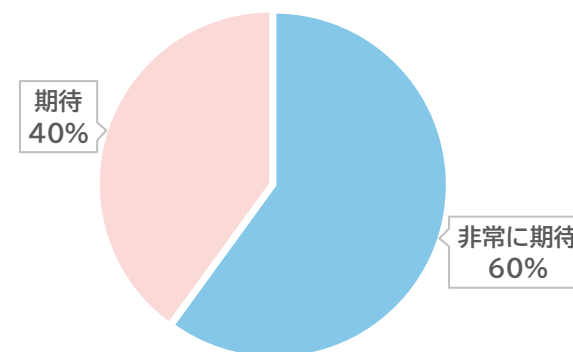
**[防災・減災] [物資輸送]**



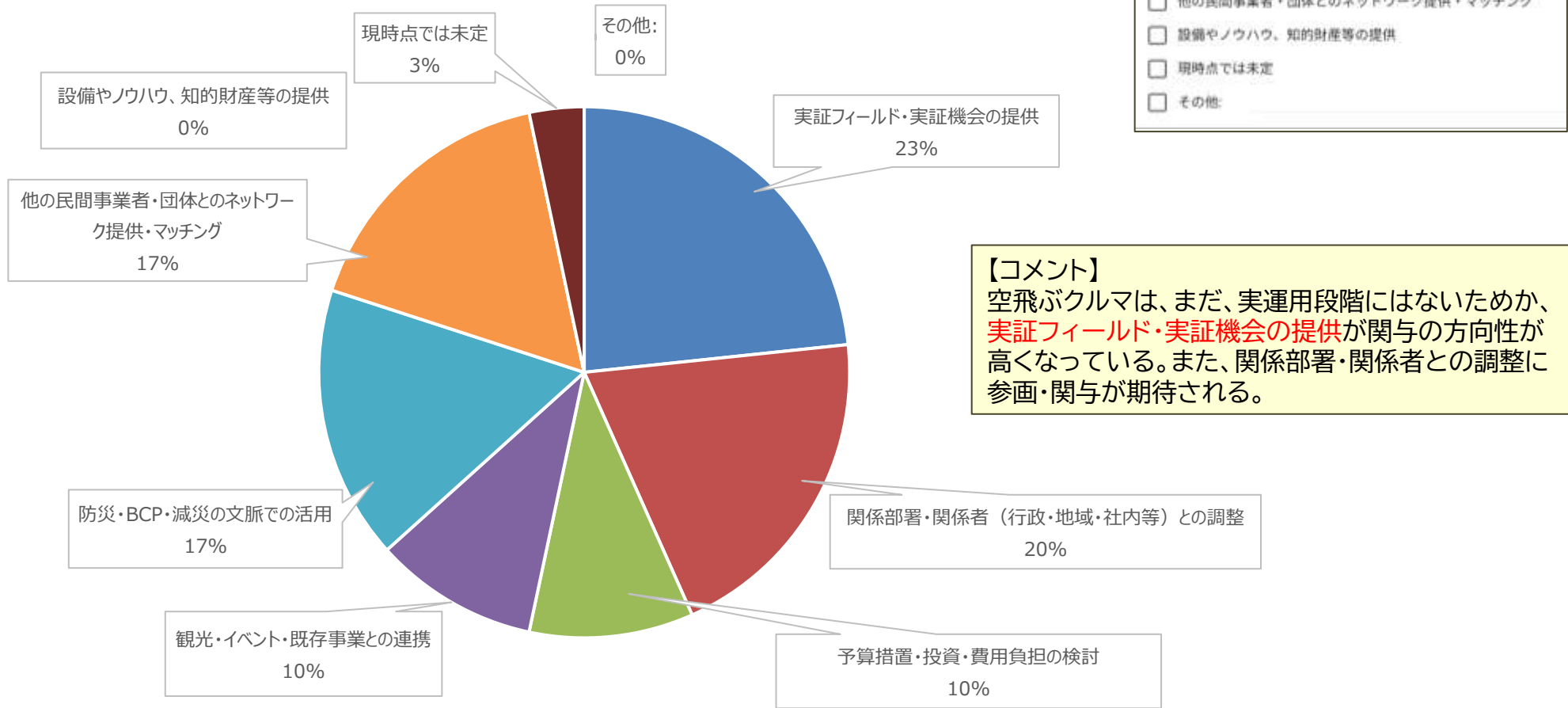
**[観光・遊覧・体験]**



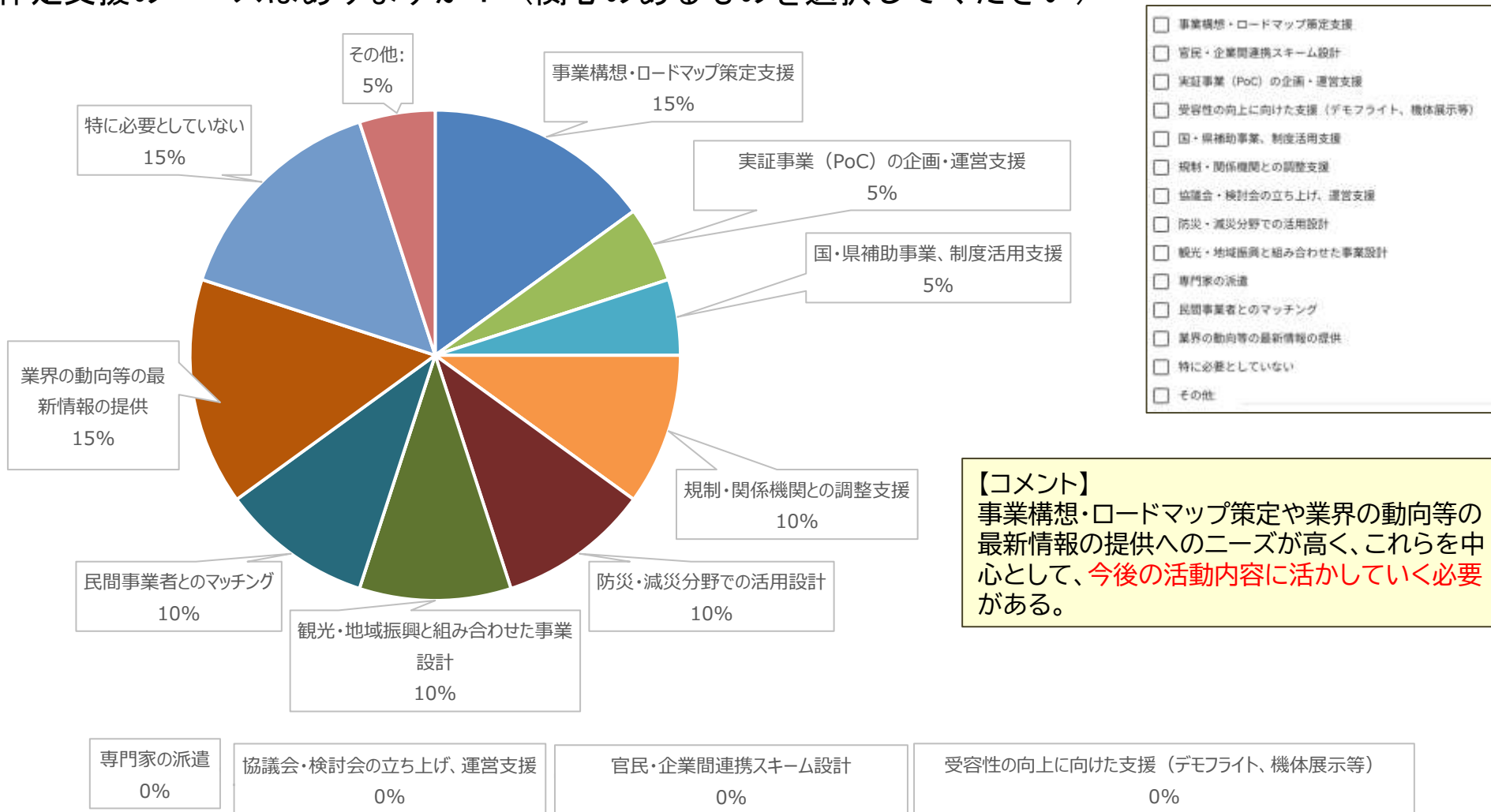
**[医療]**



問6. 空飛ぶクルマ事業に参画・関与する場合に、自組織として活かせる可能性があるリソースや関与の方向性（複数回答）



問10. 空飛ぶクルマ／次世代モビリティ導入に関して、外部の専門的なコンサルティングや伴走支援のニーズはありますか？（関心のあるものを選択してください）



## 問12. 今回のセミナーや空飛ぶクルマに関するご意見・ご要望・懸念点など（自由記述）

- ・ 関西圏では、経済産業局や大阪府様を筆頭にネットワークが構築され情報の共有を図っていただいているところですが、それ以外の各地の状況も聞くことができ大変参考となりました。可能であれば、本日のセミナー資料について提供いただきたいと存じます。
- ・ 登壇者の資料のうち、いただけるものがあればご惠与願いたいです。
- ・ 他の自治体の取組み状況が聞けて、とても参考になりました。
- ・ 他の自治体の取組を知る機会となり、参考になった。
- ・ PFIの事例紹介は、参考になりました。デジタルの交付金について研究したい
- ・ 休憩時間が30分あったおかげで、参加者との交流が持てました。
- ・ 日本や世界の動向、各自治体の取組みについて勉強になりました。事業の目的にもよりますが、各県市町村という狭い範囲ではなく、県を越えた広い範囲での連携が今後必要になってくるのだろうと感じました。

### 【コメント】

頂いたご意見は、今後の取組みに活かしていきたいと思っております。ご協力ありがとうございました。

---

# Thank You For Watching.



<申請者>

■一般社団法人MASC

URL ; <https://masc-jp.com/>

提案責任者 坂ノ上博史(Sakanoue Hiroshi)、E-mail :[info@masc-jp.com](mailto:info@masc-jp.com)